

計算人文社会学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
計算人文社会学特論 I	人文学・社会科学の計算的アプローチ入門	2	瀧川 裕貴	1学期	金	3	1	対応科目なし
計算人文社会学研究演習 I	計算社会科学の基礎	2	瀧川 裕貴	1学期	火	3	2	対応科目なし
計算人文社会学研究演習 II	計算社会科学の応用	2	瀧川 裕貴	2学期	火	3	3	対応科目なし

科目名：計算人文社会学特論 I / Computational Humanities and Social Sciences (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：瀧川 裕貴（准教授）

講義コード：LM15309， 科目ナンバリング：LIH-OS0611J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

人文学・社会科学の計算的アプローチ入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Computational Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要：

近年、人文学や社会科学において、ビッグデータや計算的手法を用いた研究が発展してきている。この授業では、人文学や社会科学のトピックに計算的アプローチを応用する計算人文社会学に関して、方法論の基本、背景となる理論、実際の研究例を紹介することで、計算人文社会学という新しい学問について理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

- 1) 計算人文社会学で用いられる方法論や理論の基本的内容や特徴を理解できるようになる。
- 2) 計算人文社会学や計算的手法の用いられた人文・社会科学の論文を読解し正しく理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、M. サルガニックの『ビットバイビット』(M. Salganik, 2017, Bit by Bit, Princeton University Press. 2019 年 4 月に有斐閣から翻訳が刊行予定) を教科書として用いて、ビッグデータ分析、サーベイ調査、デジタル実験の 3 つの方法を中心に、計算人文社会学の理論と方法について講義形式で進めていく。

スケジュールは、以下の予定である（ただし授業の進度や受講生の関心に応じて適宜変更する可能性がある）。

1. イントロダクション
2. 計算人文社会学とはなにか
3. ビッグデータの特徴、その長所と短所
4. ビッグデータを用いた研究事例 1
5. ビッグデータを用いた研究事例 2
6. ビッグデータ分析についてのまとめ
7. サーベイ調査の歴史と新展開
8. デジタル時代の新しいサーベイ調査法事例 1
9. デジタル時代の新しいサーベイ調査法事例 2
10. デジタルサーベイ調査法についてのまとめ
11. 実験研究の基本的論理とデジタル時代における発展
12. デジタル実験の研究事例 1
13. デジタル実験の研究事例 2
14. デジタル時代の実験法についてのまとめ
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

出席・授業での発言など (50%)、期末レポート (50%)

7. 教科書および参考書：

M. Salganik, 2017, Bit by Bit, Princeton University Press (=2019、『ビットバイビット』有斐閣[日本語版は 4 月までに出版される予定])

8. 授業時間外学習：

事前に教科書の該当箇所を読み、授業での質問や発言に備える。また、授業後は理解を深めるために教科書の復習をすることが望ましい。

9. その他：なし

科目名：計算人文社会学研究演習 I / Computational Humanities and Social Sciences (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：瀧川 裕貴（准教授）

講義コード：LM12306， 科目ナンバリング：LIH-OS0612J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

計算社会科学の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Computational Social Science

3. 授業の目的と概要：

この授業では、社会学、およびその関連分野における計算社会科学の研究を読み、受講者どうしのディスカッションを通じて理解や批判的検討を行う。具体的に取り上げる研究テーマとしては、社会的影響、分極化、不平等、差別などの実態やメカニズムを計算社会科学の観点から解き明かすことを試みた研究を予定している（ただし、受講者の関心に応じて適宜変更する可能性がある）。

4. 学習の到達目標：

- 1) 計算社会科学の理論と方法について十分な理解と批判的検討を行う能力を身につける。
- 2) 計算社会科学の方法を用いた学術的論文を作成するための基本的能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は既存研究の検討を通じた計算社会科学の基礎の習得を目的としている。

対象文献は、American Journal of Sociology などの社会学専門誌に掲載された研究、および Nature, Science などの一般科学雑誌に掲載された社会学と関連する研究を主とする。なお文献選択に際しては、

- 1) 計算社会科学の方法や考え方を学ぶために適した「古典的」文献（といっても、ほぼ 2000 年代以降の文献となる）
- 2) 計算社会科学のポテンシャルを示す最先端の文献（過去数年以内に出版された文献）

を適宜織り交ぜることとする。

具体的な文献については、初回到教員の提示した候補リストの中から、受講者の関心に応じて担当文献を選択してもらうこととする。具体的なスケジュールもその際に決めることとする。

6. 成績評価方法：

授業での発表（50%）、出席・ディスカッションへの参加（50%）

7. 教科書および参考書：

初回授業で指定する。

8. 授業時間外学習：

授業までに発表者だけでなく、受講者の全員が文献を読み、あらかじめ質問やコメントを用意していただくことが求められる。また、発表の際には、文献の内容を紹介し、自らの疑問やコメントをまとめた資料を用意する必要がある。

9. その他：なし

科目名：計算人文社会学研究演習Ⅱ / Computational Humanities and Social Sciences(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：瀧川 裕貴（准教授）

講義コード：LM22305， 科目ナンバリング：LIH-OS0613J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

計算社会科学の応用

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Computational Social Science

3. 授業の目的と概要：

この授業では、将来的に自ら計算社会科学の学術研究を行うことを念頭に置いて、文献レビューおよび研究計画の提案、初歩的な分析結果の報告などを行ってもらおう。前半では、社会学、およびその関連分野における計算社会科学についての最新の研究を読む。用いられている手法やデータ、理論にとくに注目しながら、自らの研究計画を考えるための参考とすること。後半では、研究計画を提案し、計画に沿ったデータ収集や分析の結果を報告してもらおう。

4. 学習の到達目標：

- 1) 計算社会科学の理論と方法について十分な理解と批判的検討を行う能力を身につける。
- 2) 計算社会科学の方法を用いた学術的論文を作成するための実践的能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業の前半では、最新の研究を読むことで、最先端の計算社会科学の理論と方法、データの扱い方を学ぶ。取り上げる文献は、American Journal of Sociologyなどの社会学専門誌に掲載された研究、およびNature, Scienceなどの一般科学雑誌に掲載された社会学と関連する研究を主とする。具体的な文献については、初回に教員の提示した候補リストの中から、受講者の関心に応じて担当文献を選択してもらおうこととする。

授業の後半では、研究計画と計画に基づいたデータ収集や分析の結果を発表してもらおう予定である（ただし、授業の進度、受講者の関心、受講者数に応じて変更する可能性がある）。

6. 成績評価方法：

授業での発表（50%）、出席・ディスカッションへの参加（50%）

7. 教科書および参考書：

初回授業で指定する。

8. 授業時間外学習：

文献レビューでは、授業までに発表者だけでなく、受講者の全員が文献を読み、あらかじめ質問やコメントを用意してことが求められる。また、発表の際には、文献の内容を紹介し、自らの疑問やコメントをまとめた資料を用意する必要がある。また研究計画の準備やデータ収集・分析については、授業時間外に作業することが必要となる。

そ

9. その他：なし